

■後嵯峨天皇 88代天皇，早くに讓位して院政を敷き，(持明院・大覚寺)兩統迭立問題の発端をつくった。

ごさがてんのう

愚管抄・・・1220＝

生。土御門天皇の皇子。母は土御門宰相源通宗の女通子。邦仁。

承久の乱・・・1221＝ 1歳

：承久の乱が起こり，乱後，父土御門上皇はみずから希望して土佐に配流となった。このため，母の叔父土御門大納言源通方に養われ，

北条政子没・1225＝ 5歳：

・・・・・・1229＝ 9歳：

御成敗式目・1232＝12歳：

鎌倉大仏始・1238＝18歳：通方が没してからは，父方の祖母承明門院に養われた。

北条泰時没・1242＝22歳：*四条天皇が皇儲のないまま12歳で崩じると，順徳天皇の皇子忠成とともに皇位継承の候補者とされた。時の権力者の九条道家は，姉の東一条院所生の忠成を推したが，邦仁の外戚側の前内大臣源定通は，その妻が鎌倉幕府の執権北条泰時の姉であったこともあって邦仁を推した。これに対して，執権泰時は，忠成の即位による順徳上皇の反幕府的院政の復活を危惧し，邦仁の即位を要請したとされる。その結果，邦仁はまず親王宣下と元服の儀をすませ，続いて踐詐し，太政官庁で即位した。しかし，それまでの摂政・関白近衛兼経に代り，父道家とは不仲であった二条良実が関白とされ，太政大臣西園寺実氏の女姑子(大宮院)が中宮とされたが，これらは幕府と親密な前太政大臣西園寺公経の策動によるものと考えられている。同年，後鳥羽天皇に諡号を送り，

九条頼嗣將軍1244＝24歳：公経が没すると，道家は挽回を図り，

・・・・・・1245＝25歳：法華八講を修して父土御門天皇の冥福を祈る。

北条時頼執権1246＝26歳：*4歳の後深草天皇へ讓位し，以後は院政を行うこととなる。後嵯峨天皇の讓位とともにその子一条実経を摂政とし，みずから朝幕間の重事を申し次ぐ任につくことを奏した。しかしその年，道家の子で鎌倉にいた前將軍頼経は，名越光時らの謀叛に連座して京都に追われたため，道家は失脚した。このため，実氏以後の西園寺氏が代々の関東申次となることとなったのである。

宝治合戦・・・1247＝27歳：

したがって，後嵯峨院政期には，院評定衆が設置されたりもしたが，その人事については幕府が干渉するなど，院政自体も幕府の制約を受けるようになった。

引付衆始・・・1249＝29歳：この年誕生した恒仁親王を寵愛する余り，

北条時頼出家1256＝36歳：

二統分化の因1259＝39歳：*後深草天皇に讓位させて，恒仁親王を龜山天皇として即位させ，

北条時頼没・1263＝43歳：

・・・・・・1265＝45歳：

・・・・・・1267＝47歳：さらに，龜山天皇の子世仁親王が誕生すると，

北条時宗執権1268＝48歳：*立太子させるなど，後世に持明院統と大覚寺統との対立の原因をつくって，出家し，

二月騒動・・・1272＝52歳：崩じた。

著作に「後嵯峨院御記」「朝観行幸次第」「後嵯峨院御3百首」「後嵯峨院後百首」「後嵯峨院御五十首」「後嵯峨院御集」などがある。